

土佐市立土佐南中学校						公印	NO. 4
重点項目	評価項目	評価判断基準	達成指標	成果・課題	評価	改善策 (A)	学校関係者評価記入欄
4 はぐくもう豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	不登校出現率調査 (H27児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査と合わせる) 年度末の不登校出現率で判断。 (小学校)不登校出現率が ・0.3%以内=A・0.7%以内=B ・1.1%以内=C・1.5%以内=D ・2.0%以上=E (中学校) 2%以内=A・2.5%以内=B 3%以内=C・3.5%以内=D 4.0%以内=E 人間関係づくり(PA・SGE等)を推進しているか。 年間4回以上 =A 年間3回 =B 年間2回 =C 年間1回 =D 一度も取り組んでいない=E	26年度は5段階評価でAであった。 27年度も5段階評価でAを目指す。 ・H26:2.0%→H27:5.0% 26年度は5段階評価でBであった。 27年度は5段階評価でAを目指す。 ・H26:全学級平均3回合計9回→H27:全学級平均3回合計9回	○30日以上欠席がある生徒は5名。その内1名はほぼ完全不登校である。その他にも不登校傾向の生徒が1名いる。 ○学級での取組や学校行事などを実施するにあたり、目標設定や振り返りを行うことで、学級の人間関係づくりを推進	E	○関係機関との連携を継続 ○気になる生徒に関する情報共有とチームとしての関わり ○毎月行っているFMdayの充実と活性化 ○個人面談や家庭訪問等を活用した生徒・保護者との関係強化	特になし
	居場所のある学校づくり	いじめ認知件数 (H27児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査と合わせる) 問題行動調査のいじめ認知件数のうち解決した割合を記入。 (記入例) 認知件数○件のうち、○件が解決。残り△件は……。 Q-Uアンケートや心の教育に関する校内研修会の実施回数で判断 ・年間5回以上行っている=A ・年間4回以上行っている=B ・年間3回以上行っている=C ・年間2回以上行っている=D ・年間2回以下である =E	いじめ認知件数は11件。 ○無視をされた、陰口を言われているような気がする、何か言われそうな気がする、というような受け取り方の問題といえるような事例がほとんど。その都度、指導し、ほぼ解消されている。 26年度は5段階評価でBであった。 27年度は5段階評価でAを目指す。 ・H26:校内研修4回、毎月FMdayの実施、Q-Uアンケート分析方法→H27:校内研修3回、毎月FMdayの実施	○無視をされた、陰口を言われているような気がする、何か言われそうな気がする、というような受け取り方の問題といえるような事例がほとんど。その都度、指導し、ほぼ解消されている。 ○FMdayやQ-Uアンケートの校内研修については継続実施。 ○学年が上がるにつれて学級生活満足群の割合も向上している。 ○児童生徒の心の理解面については、日常の指導の中で得た情報を更に共有することが重要。	C	○学校生活に関するアンケートの継続実施 ○気になる生徒に関する情報交換を毎朝の職員朝礼で積極的に行う。 ○学級経営の充実として、仲間づくりや人間関係づくりに関わる特別活動や道徳を継続的に実施する。 ○些細なことでも報告、共有。 ○教職員の積極的な研修会への参加 ○校内研修の充実	特になし
	健康な体と体力の増進	Q-Uアンケートから見る児童生徒の状況 Q-Uアンケート2回目の満足群の児童生徒の割合(平均)が、 75%以上=A 65%以上=B 55%以上=C 45%以上=D 45%に満たない=E ●Q-Uアンケート分析学年会、校内研修会の実施 ●道徳的価値の自覚を深めるための道徳授業の充実と道徳参観日の実施 ●生徒の感性や道徳性を培う体験活動や奉仕活動(命の授業・高齢者体験授業・ボランティア) ●「FMday:ファーストマンデー」:毎月第1月曜日に気になる生徒の様子について情報交換を行う「生徒理解職員会」の実施 ●「読書活動の充実」:生徒選書会の実施 ●花の植栽活動(5月、11月)	26年度は5段階評価でCであった。 27年度は5段階評価でBを目指す。 ・H26:55.7%(全国37%)→H27:58.9%(全国35%) (参考:1年50%、2年52%、3年74%) 26年度は5段階評価でBであった。 27年度も5段階評価でBを目指す。 ・H26:男女平均51.2(全国比+1.2)→H27:中2男42.6(全国比+0.7)中2女子48.7(全国比-0.4)男女平均45.7(全国比+0.2) 26年度は5段階評価でDであった。 27年度は5段階評価でCを目指す。 ・H26:朝食摂取率は89%→H27:88%	○学習に自信のない生徒が不満足群に属している傾向は昨年度と同様 ○学力向上の取組の充実も継続(T2シート活用・机間指導・支援) ○中2男42.6(全国比+0.7)中2女子48.7(全国比-0.4)男女平均45.7(全国比+0.2)だった。 ○積極的に体育授業に取り組み意欲を高め、体力アップ運動・部活動での成績の向上となっている。 ○本年度の摂取率は、88%(昨年度89%:-1P)となった。理由としては、昨年と同様「時間が無い」「食欲がない」。 ○食べない生徒は3%。 ○朝食を食べているが主食のみが36%(昨年度8%:+28%)と多くなっている。2年生がヘルスメイトさんの朝食づくりを学習し、バランスのとれた朝食や朝食の必要性を知ることができた。	C	○Q-Uに係る研修の継続 ○Q-Uアンケート結果分析職員会 ○仲間づくり手法の研修 ○授業での個への支援(机間指導の充実) ○支援の必要な生徒への手立ての実施。 ○Q-Uに係る研修の継続 ○Q-Uアンケート結果分析職員会 ○仲間づくり手法の研修 ○個別支援や特別支援教育の充実	朝食をきちんととることは非常に大事。その後の学習活動が長い。若いときにリズムをつけていないと大学生になっても食べない。 昔の小学生は、1日23000歩歩いていたが、現在は半分。私たちは腹が減って仕方なかった。運動量の不足もあるのではないかな。
	学校関係者評価を踏まえての改善点:	◇ネットにおけるいじめやトラブル等の防止に向けて校内研修を行うとともに、保護者も巻き込んだ研修の場をもつ。 ◇いじめ防止基本方針に添った「楽しく豊かな学校生活」が送ることができる、いじめのない学校づくり。 ◇「個別支援」が必要な生徒への対応の充実と「予防策」の検討。 ◇生徒会執行部や専門委員会を主体とした課題解決に向けた活動(いじめ防止にむけての生徒活動の充実)。 ◇朝食摂取率の向上や内容の充実に向けて関係機関とのさらなる連携充実を図る。					